慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	一般教育特別号予告
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1956
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.49, No.10 (1956. 10) ,p.733(45)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19561001-0045

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

絕對に、形成しない。 過程に絶對の、不可敏・不可避の條件ではない。勞働過程に起因し ない。それゆえに、偶然的損害の保険・保険料は、商品の價値を、

うな保險があるとするならば。(理論的には存在可能)。 の保險は、その保險の保險料は商品の價値を形成する。もしこのよ ②經常的損害の保險。この保險は、すなわち性質損害・消耗損害

(6)(6)のに生産物に交付する價値部分である。」「使用そのものによつて生的に生産物に交付する價値部分である。」「使用そのものによいて漸次本がその消耗により、その使用價値が失われる平均度において漸次 物生命保險、 あるとするならば。(理論的には存在可能)。 **する」層損の保險は、この保險の保險料は商品の價値を形成する。** (3)磨損の保険。「磨損とは 財産生命保險、家屋生命保險、もしこのような保險が (道德的磨損を別とすれば)、 固定資

を形成しない。 事情によつて生ずる道徳的磨損の保險は、その保險料は商品の價値 更新を强要するのは、主として破局 舊式勞働手段をその自然的死滅前に新式のものと代えることを餘儀 なくさせる。 には存在可能)。 似道徳的磨損の保険。 ,るのは、主として破局——恐慌である。」 この ようなより大きな社會的規模での經營設備のかかる時ならぬ もしこのような保険があるとするならば。〈理論的 「競爭戰は、殊に決定的變革に際しては、

されている木材・鐵・および墻壁工事の質によつて定まる。 『鐡道の維持費は、 カ月は路盤に對し、 「自然諸力の影響によつて」生ずる磨損の保険。 現實の階損によつてのみならず腐朽によつても損傷する。 鐵道交通に伴う磨損よりも、 まる一年間の鐵道交通よりも多くの害をなす むしろ、 「たとえば枕 大氣に曝 嚴多の

> であろう。」」性質損害、 このような保險があるとするならば。(理論的には存在可能)。 のである。この保險の、その保險料は商品の價値を形成する。 ただし經濟學で云う本來的・經常的損害とは區別せらるべきも これには消耗損害も老朽損害も入つている

うな保險があるとするならば

(理論的には存在可能)。 形成する。 (6)仕損品の保險。この保險は、この保險の保險料は商品の價値を 印南博吉氏の見解と相違するところである。もしこのよ

費用としての保險費用は、商品の價値を形成しない。 程における資本に對する保險。この保險の保險料は、すなわち流通 (7)商品資本と貨幣資本、すなわち流通資本に對する保險、 流通過

である。 でなく、 明かに、そして絕對に、流通費用としての保險費用または偶然的指 述べられているが、これは違う。正しくない。筆者の見解によれば、 對するわれわれの評價は、大いに異なつてこなければならない」とゆえにもし兩氏の主張が正しいとするならば、マルクスの保險論に 主張は否定され、少なくとも重大な修正を加えられることになる。 補や維持および修繕勞働のような價値形成的なものと全く異なり、 加えられたり、その評價が低落したりはしない。保險には、物保險 が、だからと云つてマルクスの主張が否定されたり、 異常な天災・火災・洪水などによる破壞に關する保險は價値形成的 にして企業保險なるものにも、多くの種類が考えられると云うこと 上述のごとく商品の價値を形成する保險も存在しうるこ とに なる さて印南博吉氏は、 マルクスの保険理論は、その「資本論」中における見解は、 剩餘價値からの控除であり、損失であるとするマルクスの 「この類推論法に立脚する結果は、磨損の塡 重大な修正が

二卷が八五年に、第三卷が九四年に公刊せられたものであり、そし について論及・論述するところが無いとしても、 的損害の」なる文言を冠すれば、それにてこの場合での彼の保険理論 中における保険なる語の上に、「流通費用としての」または「偶然 ろが無かつたと云り原因・わけの、思い半ばに過ぎるところがある。 八八三年代の人物であり、 おいては、 本論」中において、商品の價値を形成する保険になんら觸れるとこ は完璧となる。そしてマルクスが商品の價値を形成する種類の保險 はあるが、正鵠、卓越せる理論が論述せられている。 てまた各種の新様式保険・新種保険 害の保険に限られており、 なんらの誤謬も、從つて修正も必要としない。「資本論」 これに關しては、斷片的に、 「資本論」の第一卷が一八六七年に、第 -これらのうちには商品の價 彼が一八一八~一 このかぎりに 不統一にで

(註71) (註65.66.67.68.69.70) 頁 3 前掲印南氏「保險の本質」五〇九頁。 二一八頁、 ③、二一九頁、 前揭「資本論」①、三六一頁、 ③、二一八頁、③、二一八頁。 ③ 二 九

(註72) lichen Standpunkte, 1 Aufl. 1867. のことである。 wesen ist das Stiefkind der Volkswirtschaftslehre."と嘆 いんのは Die Theorie der Versicherung vom wirtschaft-例えばEmanuel Herrman が "Das Versicherungs"

(昭和三十一年八月十四日稿)

三田學會雜誌 一般教育特別號 豫告

(十二月發行豫定)

論 說

エリ ル ŋ オットの「荒地」をめぐる問題… ν テ 1 ウスに就いて………… 樋 1: 17 田 勝 保

Mazurkiewicz の定理の

擴張について…… 中 村 勝 彦

「マルテ」とキェルケゴール……… 塚 鮍

藤原氏遺體に關する動物學的調査……

ディドロ 『運命論者ジャックと

その主人

宏

「現代語學教育に關する諸問題」………大 久 保 洋 海

『保險と價値形成の問題』について

(七三三)